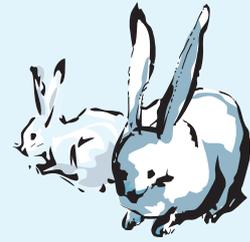


年頭あいさつ



小城市議会
議長 中島 正之



輝かしい平成23年の年頭にあたり、謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

今日では、外交をはじめ国内の社会情勢も混とんとし、経済状態も不況から脱せず、雇用状況も一段と厳しさが増しております。

このような状況のなか、本市においても行政をはじめ市民の皆さま方への影響も多大なものがあるものと存じます。

小城市誕生から早6年となり、私ども市議会議員一人ひとりが

問題意識を持って、公平・公正な立場から小城市の発展と市民生活の安定向上を図るため、さらに創意工夫を重ねるとともに、政策提言に努め、市民の皆様の期待に応えるよう全力を尽くす決意であります。

おわりに、皆様方にとりまして、実り多き年でありますことをご祈念申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。

平成21年度

決算認定を承認

9月29日から10月12日までの14日間の日程で平成21年度一般会計・特別会計・企業会計の決算審査特別委員会を開いた。

硬直化した 一般・特別会計

一般会計では歳入（収入）193億456万円に対し、歳出183億5,078万円で差引き9億5,378万円となり、うち4億円を基金積立額とした。

事業仕分けの決算委員会

決算審査特別委員会は歳入歳出の予算が正しく執行されたのか。総合的に確認・検証して予算効果と行政効果を判断します。

そして、この決算審議で反省点と改善点をまとめ、市長はそれらを踏まえ次年度の予算編成や財政運営に活かすものです。わかりやすく言えば、

地方議会における事業仕分けがこれに当たります。普通会計の経常収支比率（財政構造の弾力性を判断する比率で市では75%程度が妥当）は、小城市は88・3%で前年度比較で3・2%低下した。

公債費比率（借金に伴う後年度財政負担の限度を示すもので15%を超えないことが望ましい）は、10・8%で、前年度比較で1・1%低下し、わずかに改善した。

総じて小城市の財政状況は厳しい現状にある。

9億9千万円の未納

一般会計及び特別会計を通じた歳入では、市税4億6,016万2千円、国民健康保険税5億906万3千円、児童福祉費負担金（保育料）2,376万7千円が収入未済額で、実に9億9,299万2千円が納入されていない。

また、不納欠損額も市税3,211万7千円、

国民健康保険税2,524万9千円、保育料1,097万6千円等合わせて6,884万9千円が徴収不納として処理された。

税の公平・公正を

平成20年度に新設された収納対策課は、わずか一年で廃止。税等の徴収は長びく不況で生活困窮者増大と生活保護基準の改正により不納欠損が増加している。

厳しい生活の中で、税の不公平はあつてはならず、市税の徴収率は89・1%で、前年度と比較すると0・3%の微増となっており、これまで以上の努力が望まれる。

ムダな費用ではないか

問 清水駐車場整備事業245万円は、駐車場を作るための調査委託。しかし平成22年度当初予算に計上されていない。事業着手時に計画を立てて



いたのではないかと。
答 かなり大きな事業費となるので見送られた。

問 調査段階で、家屋の移転もわかっていて、何をいままら多額の事業費か。必要と認めたら調査したのではないかと指摘した。
答 一般廃棄物中継応急対策事業建設で、工事完成後、使用に際し不都合な状況を聞き、発注前に十分な検討をすべきではなかったか。

問 ベルトコンベアの距離が短く、一部不都合があった。異物混入対策は、

クリーン財団で10月から対応されている。

問 中心市街地活性化事業は、地元説明も十分でなく、市の財政状況も勘案しながら事業に当たるべきだ。
答 市民の声を聴きながら、議論と検討をしていく。

問 昨年の指摘と同様に、随意契約が大変多く、各課で統一されておらず、競争の原理が働いていない。市として基本的な事項を示し、円滑な契約業務を実施すべきだ。
答 ガイドラインを定め、検証して考えていく。関連随契についても今後、職員に徹底したい。



費用対効果の検証

問 新たに事業着手する場合は、その費用対効果を十分に検証すること。継続事業についても随時見直しを行うこと。また、同一事業で前年度決算との比較、分析がなされていないケースがある。
答 事業の振り返りを行い、次年度以降に活かす事業評価を行っていきたい。

莫大な費用の下水道

問 財政事情が厳しく下水道エリアの見直しを急ぐべき。

答 エリアが決まらないと市町村型設置も難しく、地元と協議を行っている。

国民健康保険の未納は

国民健康保険税の多額の収入未納額及び不納欠損については、公平性を欠き努力すべきと指摘した。

企業会計決算

企業会計としては、水道事業と病院会計があるが、水道事業会計については、投資有価証券について質疑があり、運用状況について説明を受けた。小城市病院事業会計については、改革プランに沿って経営改善に努めるべきとの質疑に、そのように努力したいとの答弁があった。

以上の経過で、平成21年度一般会計・特別会計・企業会計の決算をすべて認定した。

市長の出席を求める

委員長のまとめとして、政策的な質疑が出され、決算審査の最終日の総括質疑には行政のトップである市長の出席を求めた。また、3年前に指摘したことが改善されていないこともあり、執行部に緊張感がない。決算審査に臨む際の、組織的な対応など基本的姿勢の是正を求めた。

※不納欠損とは
税金など納めていた
だくべき額が、何らか
の理由で徴収できない
ものと決定すること
をいう。